



学校教育目標『つなげる 続ける 創り出す』

令和5年4月21日

横浜市立三ツ境小学校

三ツ境小だより 5月号

「ちょっといいこと大作戦！」

校長 飯田 雅人

新学期がスタートし、各教室では、新しい仲間たちとの学びが始まっています。教室を回りながら、子どもたちの生き生きとした学習の様子が見られることをうれしく感じています。

さて、4月7日（金）の始業式の中で、私は子どもたちに「ちょっといいこと大作戦」を試してみませんかという話をしました。次のような内容です。

「例えば、水道の蛇口から水がぼたぼたと垂れていることに気づいたら、そっと蛇口を閉めるとか、廊下にゴミが落ちていることに気づいたら、それを拾って近くのごみ箱に捨てるとか、帰ろうと思ったら、友達のいすが出しっぱなしになっていたの、そっとしまおうとか、誰にでもできそうなちょっとしたいいいことなのです。ただし、それを誰かに見つかってはいけません。いいことは、褒められるためにするわけではないからです。いいと思ったことを進んでやるのが大切です。もし、みなさんが、一人一日1回、この作戦をしてくれたら、三ツ境小学校の中で一日に600回以上のちょっといいことが起きているはず。もちろん作戦が成功していれば、誰にも気づかれていませんがね。一週間では3000回以上、なんと一か月では、1万2000回以上のちょっといいことが起きているはず。きっとさらに素敵な学校になると思いませんか？」といった具合です。できる人は、お家でもやってみてくださいねと話しました。子どもたちは実践してくれているでしょうか・・・？

また4月11日（火）の朝会では、新学期からの学校の中におけるマスクの取り扱いについて話しました。

「今までは、原則として学校の中ではマスクを着用してきましたが、そのルールが変わりました。これからは、心配だと感じる人は、今まで通りマスクをつけてよいし、マスクを外したいと思う人は、マスクをつけなくてもよいです。感じ方は、人それぞれ違います。マスクをつけたい人には、つけたい理由があり、外したい人には、外したい理由があるのです。だから、他の人がマスクをつける・つけないについては、人それぞれの考えがあるので、その考えを大切にしましょう。また人の考えがそれぞれ違うのは、何もマスクに対してだけではありません。いつも友達の考えを大切にできるといいですね。」といった具合です。マスクの着脱については、子どもたちだけではなく、私たち教職員も同じです。ただし、感染症対策としての咳エチケットやこまめな手洗いについての取組は今までと同じです。子どもたちには、判断に困ったり、不安に思ったりした場合は、家族と相談しましょうと話してあります。各ご家庭でも、共通理解のもと子どもたちに話していただけると助かります。

まだまだ油断してはいけないと思います。しかしながら少しずつではありますが、ポストコロナを目指していきたいと考えています。